

ふれあい事業を中高生が自主企画 ～京都市～

(問い合わせ先) 塔南の園児童館

電話番号: 075 (662) 2761

1. 事業の特徴

児童館主催の乳幼児とのふれあい事業に参加した中高生が、更に子育て家庭への理解を深めるため、児童館のバックアップの下、自主的なふれあい事業を企画。

2. 実施場所

塔南の園児童館

3. 事業の概要

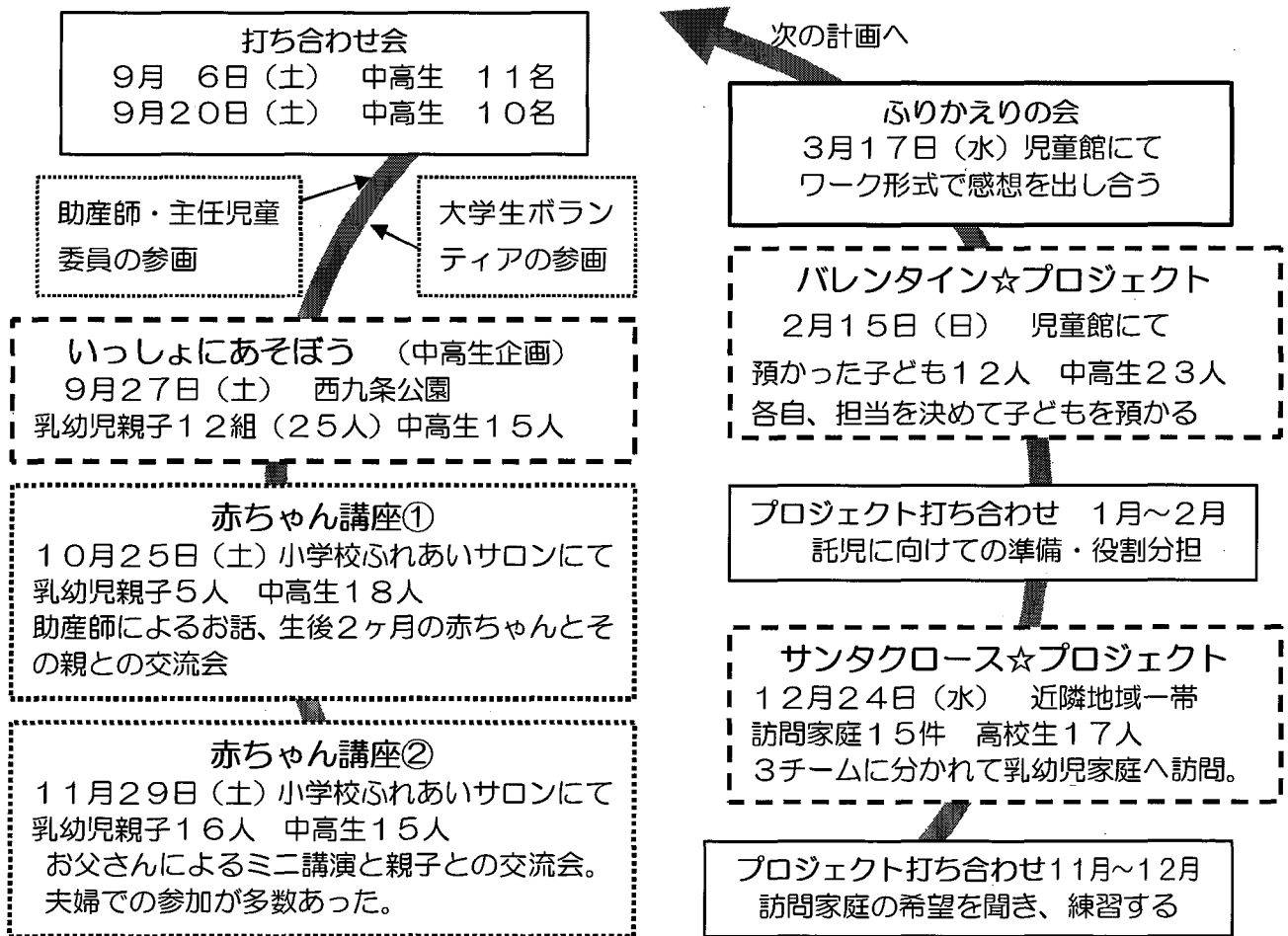
プログラムは大きく分けて下記の2つの種類を設定した。

①助産師と連携して企画する「赤ちゃん講座」

②中高生自身が主体となって企画する「中高生企画」

それを、一年間の「継続した出会いとかかわりのあるプログラム」になるよう実施した。

(平成15年度の例)



4. 中高生企画の内容

サンタクロース☆プロジェクト

それまでの赤ちゃん講座や公園での遊びの企画等によってふれあった乳幼児家庭に対し、クリスマスイブの夜に高校生がサンタやトナカイになって訪問する。

- ・ 事前に訪問する家庭との打ち合わせを丁寧に行い、「絵本が好きなのでサンタさんに読んでほしい」等親の思いを高校生が聞き取り、親と共に当日の内容を決める。
- ・ 子どもの興味にも合わせて、高校生が演出を練習。クリスマスカードも作成する。
- ・ 高校生が3つのチームに分かれ、サンタ役、トナカイ役など役割分担して訪問す



- ・ 準備は各チームにすべて任せた為、それぞれの個性を出し合い、訪問する家庭のことを想像し、責任感や不安感も持ちながらの作業であった。
- ・ 訪問を終えて帰ってきた時は、相当の達成感があるようなので、その気持ちをメンバーで分かち合う時間を用意した。

バレンタイン☆プロジェクト

赤ちゃん講座で、赤ちゃんとその両親との出会いがあった際「赤ちゃんには夫婦関係が一番大事」と高校生が感想を残す。そして「自分たちはもっと夫婦の役に立ちたい」という思いから、「夫婦のデートの為に子どもを預かろう」と中高生が立案した企画。

- ・ 乳幼児親子への呼びかけチラシ、託児中の記録シートなど高校生達で作成する
- ・ 閉館日である日曜日の児童館を使い、赤ちゃんの担当を決めて託児をする。
(預かる時間は個別に相談して決める)
- ・ 万が一に備え、児童館スタッフに加え、看護師、主任児童委員などのボランティアのサポートチームが待機する。
- ・ 両親と再会する場面では少し時間をとり、中高生と両親の気持ちを交換する場とした。
- ・ 両親の満足度、中高生の達成感は非常に高いものになった。



5. 事業の成果

【中高生にとって】

- ・1年間継続して親子とのかかわりを持つことで、相手を理解しようとし、その思いに共感し、責任を持って関わる、という活動が生まれた。
- ・中高生達が自ら主体的に取り組む『自主企画』の実践によって、参加した親子に自分自身の存在を認めてもらい、期待されている存在であることを感じる。その結果として得られた自己肯定感や役立ち感は、また新たなかかわりを生み出す原動力となる。地域での異世代のかかわりあいをそのような形で実現しつつあると考える。

【乳幼児の保護者にとって】

- ・我が子がこんな風に育って欲しい、地域がこうした若者達を育て応援する社会になって欲しいという、十数年後を見通した子育てと地域づくりの意識が親たちの間に芽生えた。